

# 外国人日本語学習者の用いる積極的ポライトネス

— メールの記事を例にして —

牧原功（群馬大学）

## 要 旨

これまでポライトネスに関わる研究においては、聴者の消極的フェイスに配慮する消極的ポライトネスに焦点が当てられることが多かった。しかし、外国人日本語学習者の不適切なポライトネスの使用例を検証してみると、聴者の積極的フェイスに関わるポライトネスに分類できる用例が散見される。そこで、本稿では、外国人日本語学習者がなぜ積極的ポライトネスを多用するのかについて検討した。結果として、同一の表現であっても、それが消極的ポライトネスとして用いられるか積極的<sup>ポライトネス</sup>フェイスとして用いられるかが言語によって異なること、また慣習化という概念を援用し、外国人日本語学習者が消極的ポライトネスとして使用した表現が日本人には積極的ポライトネスとして捉えられるという現象が生じるメカニズムを説明した。

キーワード：積極的ポライトネス、消極的ポライトネス、挨拶、慣習化

## 1. 問題の所在

筆者は群馬大学において、外国人日本語学習者を対象とした日本語の授業を担当している。その中に、日本における教育・研究活動を円滑に進めるために、依頼や問い合わせ等の文章をメールで作成するという課題を課すクラスがある。その授業で学習者にメールの添付ファイルで課題の提出を求めることがあるが、メールの文章の中に、課題そのものよりも様々な問題が含まれるということが頻繁に生じる。例えば以下のようなものである。

### (1) 課題を添付して送付する際のメール本文

先生、こんにちは。私は〇〇です。いつもとても参考になる授業ありがとうございます。メールに自分が書いた作文を添付いたしました。先生の時間があるときに、目を通してください。非常にありがとうございます。以上、よろしく願いいたします。(中国)

この文に見られる \_\_\_\_\_ 部分は日本人が用いることの少ない積極的ポライトネスを使用した例だと思われるが、このような例は非常に多く観察される。(2)は課題文中に見られる例である。

### (2) お店に忘れ物を探して欲しいと依頼するメール

お忙しいところ、ご連絡差し上げて申し訳ありません。ゴールデンウィークに〇〇で買い物をした××と申します。私はどこかの店でイヤリングを忘れてしまいました。三日前に店の試着室でワンピースを試着する時、落としたのかもしれませんが。イヤリングは金でできていて、〇〇というロゴが入っています。もしございましたら、以下の住所に着払いで送っていただけませんかでしょうか。

ご対応とご協力に感謝いたします。お手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。(ポーランド)

(2)の例文の、「ご対応とご協力に感謝いたします」は、日本語母語話者には非常に不自然に感じ

られるもので、まだ対応していないうちに感謝を言われると協力を催促されているような一種の押しつけがましさを感じてしまうのではないかと思われる。これは、(1)の例文の「非常にありがとうございます」とほぼ同様の用例である。これを積極的ポライトネスと見てよいかについては見解が分かれる可能性があるが、この押しつけがましさというものが、話者と聴者の距離を縮めようとする積極的ポライトネスのストラテジーから派生するものであると考えることには一定の理解が得られるものと思う。

## 2. 消極的ポライトネスと積極的ポライトネス

一般に、消極的ポライトネスは他者に嫌われたくないという消極的フェイスに配慮したストラテジーであり、積極的ポライトネスは他者に受け入れられたい、良く思われたいという積極的フェイスを顧慮したストラテジーと言われている。このうち、積極的ポライトネスについて、B&Lは、「必ずしも常に FTA により侵害されるフェイス欲求の補償であるというわけではない」と述べ、「一種の社会的促進剤として使用可能であり、話者はそれを使うことにより聴者により近づきたいという意志を示すことができる」と述べている。

以下に B&L による積極的ポライトネスのカテゴリーとストラテジーを整理しておく。

### 〈ポジティブポライトネスのカテゴリー〉

1. お互いの共通の基盤を示す (Claim common ground)
2. 自分と相手は協力関係にあること示す (Convey that S and H are cooperators)
3. ある X に対する相手の欲求を満足させる (Fulfill H's want for some X)

### 〈ポジティブポライトネスのストラテジー〉

1. 相手 (の関心・欲求・必要・所有物) に気づき・注意を向ける  
(Notice, attend to H(his interests, wants, needs, goods))
2. (相手への趣味・同意・共感を) 誇張する  
(Exaggerate (interest, approval, Sympathy with H))
3. 相手への関心をより強いものにする (Intensify interest to H)
4. 内輪である標しを用いる (Use in-group identify markers)
5. 一致を求める (Seek agreement)
6. 不一致を避ける (Avoid disagreement)
7. 共通基盤を仮定する・喚起する・主張する  
(Presuppose/raise/assert common ground)
8. 冗談を言う (Joke)
9. 相手の欲求についての知識と気遣いを主張しまた仮定する  
(Assert or presuppose S's Knowledge of and concern for H's wants)
10. 申し出・約束をする (Offer, promise)
11. 楽観視する (Be optimistic)
12. 自分と相手の両者を行動に取り組む  
(Include both S and H in the activity)
13. 理由を言う (また尋ねる) (Give (or ask for) reasons)

14. 相互的であると見なした主張する (Assume or assert reciprocity)

15. (物・共感・理解・協力を) 相手に贈与する

(Give gifts to H(goods, sympathy, understanding, cooperation))

(Brown, P. and S. Levinson (1987) : 101-129、なお日本語訳は滝浦 (2008) を参照)

これらから、積極的ポライトネスは、積極的フェイスを考慮したものと定義されつつも、相手が喜ぶ発話をするというだけでなく、「相手との距離を縮める」「親密さを示す」という特徴が重視されていることがわかる。

### 3. 日本語の文章における積極的ポライトネス

積極的ポライトネスの例として B&L が挙げているものは、そのほとんどが会話であり、文章例は少ない。会話においては、相手の持ち物を褒めたり、冗談を言ったり、方言を用いたりといったことが可能であるが、文章ではこのようなストラテジーを用いることはできない。

そこで、筆者がこれまでに同僚に送ったメールをもとに、その中のどのような表現が積極的ポライトネスと考えられるかを検討したところ、端的に積極的ポライトネスと考えられるものとして、文頭や文末の挨拶文を挙げることができると思われた。そこで、以下では、まず挨拶というものの発話機能を整理し、挨拶がどのようなポライトネスを表しているかを概観する。

#### 3.1. 発話行為としての挨拶

文章における挨拶を発話行為としてどのように位置づけるかについて、山岡 (2008) をもとに考えておきたい。山岡 (2008) によると、《挨拶》という発話行為は [形成] の下位範疇に分類される。<sup>(1)</sup>

[形成] とは「会話を形成すること」を目標とし、「発話参加者が会話の成立を欲していること」を語用論的条件とする範疇である。これは、会話を念頭に置いて分類記述されたものであるが、文章においては [形成] とは、「書き手が読み手に情報を提供することを」を目標とし、「書き手 (情報提供者) は、読み手 (情報授与者) が、提供された情報を受け入れることを欲している」とすることができるだろう。

また、同様の定義では《挨拶》は「人間関係を維持・確認すること」が目的とされ、「やあ」「おはよう」などがその例としてあげられている。文章においても、文頭や文末の挨拶は、人間関係を維持・確認することを目的とすることができる。メールや手紙などの文章では、用件のみ書いてしまうと、ぶっきらぼうであったり、素っ気なかったりという印象を与え、人間関係の維持が上手くいかなくなる。本題に入る前に「人間関係を維持するために」用いられる点は、会話における《挨拶》と同様である。

次に文章における挨拶として頻繁に使われる例を考えると「こんにちは」「ご無沙汰しています」「いつもお世話になっております」「先日はありがとうございました」など、いくつかの表現が思い浮かぶ。これらも、相手との良好な人間関係を維持したいという意図で用いられるものであると言えるだろう。

では、「良好な人間関係を維持したい」とは「相手に気に入られたい」という意志の表れであり、それはすなわち「相手の積極的フェイスに配慮している」ということになるのであろうか。この点については、2章で見たとおり、積極的ポライトネスは、積極的フェイスを考慮したものと定義さ

れつつも、相手が喜ぶ発話をするというだけでなく、相手との距離を縮める、親密さを示すという特徴を有するものと考えるのが妥当であり、挨拶の中には積極的ポライトネスストラテジーとして用いられるものあれば、消極的ポライトネスストラテジーとして用いられるものもあるということになるだろう。

もちろん、これらは明確に二分されるものではなく、ある表現は積極的ポライトネスとして解釈されやすく、ある表現は消極的ポライトネスを表すものとして解釈されやすいというような、段階的な濃淡を持つものであると考えべきものである。しかし、どのような場合に積極的ポライトネスとして機能しやすいか、言い換えれば、積極的ポライトネスを表す挨拶にはどのような特徴があるかを整理しておくことは必要だと思われる。

### 3.2. 挨拶における消極的ポライトネスと積極的ポライトネス

積極的ポライトネスはFTA回避という目的を持たない場合が多い。そこで、ある挨拶が積極的ポライトネスによるものであるか消極的ポライトネスによるものであるかを考えるために、FTAを伴わない条件で書かれたメールを例にして考えることとする。

以下のメール例は、筆者が、事務的な関係を持つだけの相手に送ったものと、一緒に食事をしたり出張に出かけたりしている相手に送ったものである。これらは、いずれも、書類の提出を求められた後で、それに応える形で筆者自身が書類を送る際に用いた文例である。

#### (3) 事務的な関係の相手に対する文章例：文頭の挨拶

いつもお世話になっております。国際教育・研究センターの牧原です。先日ご依頼のありました〇〇を作成いたしましたので、取り急ぎお送りいたします。

#### (4) 個人的に親密な関係の相手に対する文章例：文頭の挨拶

年末の台湾出張ではお世話になりました。日本に戻ってから、一度反省会でもとお話ししておりましたが、もう2週間経ってしまい、あつという間で驚いております。

ところで、今週中に原案をお送りすることとなっていた出張報告書を添付ファイルにてお送りいたします。

これらの文章例のうち、(3)は「いつもお世話になっております」という高い待遇性が求められる場面で慣習的に使用される挨拶文を用いている。以後、これを「定型的な」挨拶文と呼ぶこととする。この「定型的」とはその場に求められる待遇性等を考慮した際に、慣習的に用いられるという意味である。親密な関係での挨拶としては「こんにちは」も定型的な挨拶として機能していることになる。

一方(4)では、より個人的な情報を加え、慣習化された定型的な挨拶からは意図的に逸脱した挨拶文を用いている。文章作成者としての内省から述べれば、(4)の文章を送った相手に対して(3)にあるような定型的な挨拶文を用いても全く問題はなかったものの、そのような書き方をしてしまうと非常に他人行儀な感じがして、メールの受け手もよそよそしさを感じるのではないかという配慮が働いて(4)のような文例を用いている。また、頻繁にメールをやりとりする相手の場合、定型的な挨拶を毎回用いていると単調な気がしてしまい、少し変化を付けようと思って(4)のようなやや個人的な話題をもちいた挨拶を用いることもある。

これらの文章例は、どちらもFTAを伴うものではないが、(3)は、FTAを回避するという目的が



ないとしても、その挨拶自体が省略され急に本題に入った場合、聴者に対して不躰さ、無礼さといった印象を与える可能性が高い。これは、宇佐美 (2001) の言う、「守られていて当たり前であると期待されている言語行動が現れないときに、初めてそれがないことが意識され、ポライトではないと認知される」という現象における「守られていて当たり前の言語行動の状態」にするために用いられる表現と考えられる (宇佐美 (2001) : 50)。いわゆる「無標ポライトネス (unmarked politeness)」の例であり、その表現が無いことによる FTA を回避する消極的ポライトネスと見ることもできそうである。

それに対して (4) は、「いつもお世話になっております」という当然あるべき表現 (=意識せずに使用する表現) を意図的に変化させて使用しているという点で、有標のポライトネスに変化していると言えるだろう。【そして、その効果は話者と聴者との共通性を明示し、親密さをアピールし、話者聴者間の距離を縮めるものであると考えられる。】

このような現象は、文章の前置きだけに見られるものでなく、文末においても同様に観察できる。以下は、上記の (3)、(4) のメールに続く文末部分である。

(5) 事務的な関係の相手に対する文章例：(3) のメールの結び

お忙しいところ恐れ入りますが、よろしく願いいたします。

(6) 個人的に親密な関係の相手に対する文章例：(4) のメールの結び

入試業務等でお忙しいことと思いますが、また時間ができましたら、〇〇先生もお誘いして、一杯飲めるといいですね。

これらのことから、文章中の「挨拶」における、消極的ポライトネスを表す表現と積極的ポライトネスを表す表現には、以下のような差が見られることがわかる。

表1 文章の挨拶に見られる、消極的ポライトネスと積極的ポライトネス

	消極的ポライトネス	積極的ポライトネス
表現の汎用性	定型表現・汎用性がある	定型から逸脱・汎用性は少ない
話題の性質	個人的な話題を含まない	個人的な話題を含む
有標か無標か	無標	有標

これらを前提として、なぜ外国人日本語学習者の文章には積極的ポライトネスを表すと考えられる表現が頻繁に見られるのかについて考えることとする。

#### 4. 外国人日本語学習者の文章に見られるポライトネスと、不適切な使用例に見られる特徴

既に、1 章において外国人日本語学習者の文章に見られる積極的ポライトネスの例を示したが、まず、日本人の書いた文章例と外国人日本語学習者の書いた文章例を比較して、どのような差異が見られるかを見ておきたい。

外国人日本語学習者の用例は、2015 年 12 月に、群馬大学が受け入れている交換留学生 12 名から収集した。収集した例文は、授業での課題として提出を求めたもの 2 例と、課題を提出する際のメールの文章 1 例である。授業での課題は「レポートの提出期限を延ばしてもらおう」「ショッピングモールのお店にイヤリングを落としたかもしれないので探して欲しいと依頼する」というテーマによるもので、メールの文章は課題を添付ファイルで送るよう指示し、その旨を自由に記すようにと指示したものであった。日本人学生のデータは、2016 年 1 月に、群馬大学の 1 年生 10 名に上記

と同様の課題に対する文章の作成を依頼したものである。

また、これらの課題以外にも、2015 年度に日本人学生と外国人日本語学習者のそれぞれ 1 名から、レポートの締め切りを間違えたので添付ファイルで送る旨のメールを受け取っていたことから、これらも資料として用いることとした。

なお、学習者の日本語のレベルは全員が JLPT の N1 レベルに達しており、交換留学で来日後 3 ヶ月ほど経過している。

#### 4.1. 課題の提出締め切りに間に合わなかったので添付ファイルで送付する際のメール例

(7) と (8) の文章例は、いずれもレポートを期日までに送ることができなかった学生から受け取ったメールである。それぞれ日本人、外国人日本語学習者ともに 1 名から受け取ったものである。

(7) 課題の提出が遅れたことを謝罪し提出する文章例（日本人学生）

〇〇（授業名）でお世話になっております、教育学部英語専攻 1 年△△です。

本日午前 0 時締め切りとなっていたレポートなのですが、明日の午前 0 時締め切りと誤って記憶していて、提出が遅れてしまいました。本メールにレポートを添付させていただいたのですが、評価していただくことは可能でしょうか。

御迷惑をお掛けし大変申し訳ありませんが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

(8) 課題の提出が遅れたことを謝罪し提出する文章例（外国人日本語学習者・中国）

先生、いつも作文を添削してくださってありがとうございます。毎回いろいろなところを直していただけてとても参考になります。

ところで、昨日締め切りだったレポートを提出できませんでした。時間を間違えていて、Moodle の提出ができなくなっていました。申し訳ありませんが、添付ファイルでお送りします。よろしくお願いいたします。

【(7)、(8) の文章とも、文頭の挨拶として、授業で種々の知識を得ていることに対する感謝を述べている。だが、(7) の文章はごく自然に読み流すことができるのに対し、(8) の文章の \_\_\_\_\_ 部分の表現は、何か特別な印象を持ってしまう。それは、誤解を恐れずに言えば、読み手に媚びているというような印象を受けるということであり、相手に気に入られたいと考えているように解釈できるということである。言い換えると、(7) の文章は無標ポライトネスとして機能している、あるいは、以後で締め切りに遅れたレポートを受け取って欲しいという依頼を行うにあたっての消極的ポライトネスとしてのストラテジーを持つ表現と解釈されるが、(8) の文章は有標のポライトネスであり、相手を褒める、謝意を表すといった行為を通じて、読み手との距離を縮めようとしていると受け取られていると考えられる。】

#### 4.2. お店にイヤリングを落としたかもしれないので探して欲しいと依頼する例

(9)、(10)、(11) は、お店にイヤリングを落としたらしいので探して欲しいと依頼するという課題について、外国人日本語学習者と日本人が作成した文章例である。

(9) お店にイヤリングを落としたらしいので探して欲しいと依頼する（日本人）

突然のメールで失礼いたします。

私は、3 日ほど前、ゴールデンウィークにショッピングモール Century のお店で買い物

をした水野と申します。Century のサイトを拝見して、こちらのメールアドレスを知りました。

買い物の際、どこかのお店でイヤリングを落としてしまったみたいです。試着をしたときに落とした可能性が高いと思い、貴店にご連絡差し上げました。

3日前に、貴店にイヤリングの落とし物がなかったでしょうか？真珠のイヤリングです。

お忙しいところ恐れ入りますが、もし該当する落とし物がありましたら、ご連絡いただければ幸いです。こちらのメールへの返信か、携帯電話(091-5780-8575)までお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

- (10) お店にイヤリングを落としたらしいので探して欲しいと依頼する (ポーランド)

お忙しいところ、ご連絡差し上げて申し訳ありません。ゴールデンウィークに〇〇で買い物をした××と申します。

私はどこかのお店でイヤリングを忘れてしまいました。3日前に店の試着室でワンピースを試着する時、落としたのかもしれませんが。イヤリングは金でできていて、〇〇というロゴが入っています。もしございましたら、以下の住所に着払いで送っていただけませんかでしょうか。

ご対応とご協力に感謝いたします。お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

- (11) お店にイヤリングを落としたらしいので探して欲しいと依頼する (中国、一部省略)

こんにちは。私は先週〇〇モールへショッピングに行きました××と申します。(中略)

夜、家に戻った時、大切なイヤリングが無いことに気が付きました。先週、試着室でハートのイヤリングを見かけませんでしたか。(中略)

とても大切なイヤリングなので何とか見つけたいです。これは私の連絡先：電話番号、メールアドレスです。最後に、ハートのイヤリングの写真をメールに添付します。お忙しいところ申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。ありがとうございます。

文中の\_\_\_部分は消極的ポライトネスとして用いられている表現と考えられるものである。これらを見てわかることは、外国人日本語学習者も、文頭で「お忙しいところ、ご連絡差し上げて申し訳ありません」のような消極的ポライトネスに関わる表現は、ほぼ適切に利用できているということである。これは、他の外国人日本語学習者でもほぼ同様で、このような挨拶を使用しない例は2例のみ、それら2例は、その表現の代替表現として「こんにちは」を用いているというものであった。

また、文末の「よろしくお願いいたします」という表現も「お忙しいところ恐れ入りますが、よろしくお願いいたします」「お手数をおかけして申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします」のように、外国人日本語学習者のすべての用例が消極的ポライトネスを表す表現と同時に用いられており、日本人学生の作成した文章と差は見られなかった。このような消極的ポライトネスに関わる表現には十分に留意して文章を作成しているということが伺える。

その一方で、外国人日本語学習者の用例では、(10)のポーランドの学生の「ご対応とご協力に感謝いたします」、(11)の中国の学生の「ありがとうございます」のように、行為の成果を得る以前

に謝意を表明する例が12名の学生の提出課題のうち4例に見られた（学習者の国籍はポーランド1名、ハンガリー1名、中国2名）。

これは既に述べたことであるが、このように事前に謝意を表明された場合、それは有標のポライトネスとして解釈され、日本人の読み手であれば、何か特別な意味を持つものと考えらるであろう。また、そこに覚える違和感は、相手の丁寧さに対する恐縮といったものではなく、「事前に感謝されたら困るなあ、断れないなあ」といった感情であったり、単純にありがとうございますといった発話であった場合は「何だかなれなれしいなあ」といったものであるように思う。本稿ではこれらを、純粋な消極的ポライトネスとは理解されない例であると考え、積極的ポライトネスとして解釈しうるものとする。

また、「お忙しいところ、ご連絡差し上げて申し訳ありません」のような消極的ポライトネスを使用すべき場面で、「こんにちは」を使う例も、積極的ポライトネスの不適切な使用と言えるであろう。

イヤリングを落としたかもしれないので探して欲しいという依頼のメールにおける、外国人学習者（F）と日本人（J）の文章中の挨拶に該当する要素を比較した結果を以下に示す。日本人が使用しない場面で、積極的ポライトネスを用いる事例が散見されることが確認できることと思う。

表2 外国人日本語学習者の文章例と日本人の文章例に見られる差異

	文章中に表れる表現	F	J
文頭	「お忙しいところ恐れ入ります」等の挨拶	83%	100%
	「こんにちは」	17%	0%
文末	「恐れ入りますが等+よろしく願いいたします」	100%	100%
	「ご協力に感謝します」「ありがとうございます」等	33%	0%

## 5. まとめ—なぜ外国人日本語学習者は積極的ポライトネスを多用するのか—

これまで日本語の文章を例にして、メールや手紙等での挨拶表現には、消極的ポライトネスを表すものと、積極的ポライトネスを表すものがあること、それは、その表現が汎用性のある、慣習化された定型表現であるか、定型表現から逸脱し汎用性を持たないものであるかが関わっていることを観察した。

また、外国人日本語学習者の文章には、積極的ポライトネスと解釈される表現が、日本語母語話者の文章と比較して用いられやすいことがわかった。

このような現象が生じる理由として、外国語では積極的ポライトネスが多用されるが日本語ではそれに比して少ないと解釈することも可能ではあると思うが、本稿はその立場は採らない。

まず、ある表現が積極的ポライトネスと解釈されるかどうかという点では、その表現が定型表現であるかどうかということが一つの大きなファクターとなっている点が重要だと考える。つまり、外国人日本語学習者がある積極的ポライトネスの表現を用いた場合でも、それが積極的ポライトネスストラテジーを表すものであるという自覚、理解無しに用いられた可能性がある。さらに言えば、母語では消極的ストラテジーとして使用可能だった表現を、直訳的に日本語で用いたために、それが日本語の定型表現から外れてしまい、有標のストラテジーとして解釈され、積極的ポライトネス的に解釈されるということも想定される。

そこで、4章で示した、「レポートの提出期限を延ばしてもらおう」「ショッピングモールのお店にイヤリングを落としたかもしれないので探して欲しいと依頼する」という二つの課題に対して、外国人日本語学習者に、母国語で文章を作成してもらい、合わせてその直訳的な日本語訳を作成させた。その例を以下に示す。

(12) ポーランド母語話者の例

Dzień dobry,

W trakcie weekendu majowego prawdopodobnie zgubiłam w Państwa sklepie kolczyk. Być może upadł mi on w przymierzalni, kiedy oglądałam sukienkę. Kolczyk jest wykonany ze złota i ma wygrawerowane charakterystyczne logo.

W razie odnalezienia zguby proszę o kontakt telefoniczny. Będę wdzięczna za wszelką współpracę.

Z wyrazami szacunku,

(日本語訳)

こんにちは、五月の週末にあなたたちの店でイヤリングを忘れました。多分、ワンピースを見る時、試着室で落としました。イヤリングは金で作られて、特徴なロゴが入っています。

忘れ物を見つけたら、電話してください（3444-2323-3424）。全部の対応と協力に感謝します。

尊敬の言葉を加え。

(13) 中国語母語話者の例

您好！

我是前天在贵购物中心购物的顾客，我姓○○。

前天我在购物时，因自己不小心，把一副耳环遗失了。据我回忆，前天我只在三楼女装C区试过衣服，大概是试衣服的时候弄掉的。方便的话，麻烦您帮我找一下可以吗？是一副珍珠耳环，对我来说有特别的意义。如果能帮我找到，我必亲自登门致谢。

静候佳音。

(日本語訳)

こんにちは。私は○○と申します。

おととい、私はxxショッピングモールで買い物をしました。自分のせいで、わたしのイヤリングを落としたようです。おとといは私は三階の婦人服c区で服を試着しただけですが、もしかすると、試着した際に落としたかもしれません。できれば、三階の婦人服c区でイヤリングを探していただきたいのですがよろしいでしょうか。真珠のイヤリングですが、私にとって特別な意味がありますので、もし見つかったら、お手数ですが、私に電話でご連絡していただければ幸いです。私は後で忘れ物センターに来て感謝します。

ありがとうございます。

課題提出後に文章作成者にインタビューを実施し確認したところ、外国人日本語学習者は、その母語では消極的ポライトネスとして機能する文を、そのまま日本語に訳して使用していることがわかった。中国語の「您好」は二人称の敬称「您」を用いた丁寧な表現であるが、日本語に翻訳すると「こんにちは」としかならない。これも結果的には母語では消極的ポライトネスであるか、ある

いは無いと FTA を生じる可能性のある無標のポライトネスとして機能していたものを、そのまま日本語に直訳して使用したことによって生じる不自然さであると言える。

つまるところ、母語では消極的ポライトネスを表し、無標のストラテジーであったものが、日本語では通常は用いられない表現形式であるが故に、日本語に翻訳して用いられると有標の形式として理解され、読み手に積極的ポライトネスを表現しているように解釈されるという現象が生じていると考えることができる。これが、外国人日本語学習者の文章に積極的ポライトネスが頻繁に現れる原因であると言えるのではないだろうか。

同一の機能を表す文でも、言語によって異なる形式となることは容易に想像できることである。だが、母語における消極的ポライトネスを他の言語でそのまま使用することによって積極的ポライトネスとして解釈されるということにはこれまで十分な配慮が行われず、積極的ポライトネスの不適切な使用の原因については、単純に文化が異なるからであるとか、言語によって積極的ポライトネスの使用頻度が異なる、といった理由付けがされていたように思う。今後は、日本語と他の言語との対象を精緻に行っていく必要があるだろう。

また、本稿で用いた、「定型的な」表現、「定型表現」という概念は、山岡他（2014）が提唱した配慮表現の定義における「一定程度以上に慣習化された」という概念とも密接に関わるものである。より広い用例を用いて「定型化」「慣習化」という概念を更に深く検討することも必要であるように思う。

## 注

(1) 山岡は発話機能を4つの範疇に大別し、それらを { } で、下位区分となる発話機能を《 》で示している。本稿でもそれにならった。(山岡(2008) : 3-9)

## 参考文献

- 宇佐美まゆみ(2001)「談話のポライトネスーポライトネスの談話理論構想」『談話のポライトネス』  
国立国語研究 9-58
- (2002)「ポライトネス理論と対人コミュニケーション研究」『日本語教育通信』18  
国際交流基金 6-7
- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社
- 平静・松村瑞子(2011)「日中会話におけるポライトネス・ストラテジー」『言語文化論究』26 73-84  
九州大学大学院言語文化研究院
- 牧原功(2014)「配慮表現としての注釈表現に関する一考察」『日本語用論学会 第17回大会発表論文集』第10号 日本語用論学会 319-322
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- 山岡政紀(2008)『発話機能論』くろしお出版
- (2014)「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『日本語用論学会 第17回大会発表論文集』第10号 日本語用論学会 315-318
- Brown,P. and Levinson,S.(1987) *Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge University Press.
- (ペネロピ・ブラウン, スティーヴン・C・レヴィンソン(2011)『ポライトネス 言語使用における、あ



る普遍現象』田中典子監訳 齊藤幸子・津留崎毅・鶴田 庸子・日野壽憲・山下早代子訳, 研究社.)

Paul J. Hopper and Sandra A. Thompson. (1980). Transitivity in grammar and discourse. Language,

Leech, G. (1983) Principles of Pragmatics, Longman (邦訳: 池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』紀伊  
国屋書店)

(牧原功、群馬大学国際教育・研究センター准教授、makihara@gunma-u.ac.jp)